

## 2017年度第2回東海大学医学部附属病院医療安全管理業務監査委員会記録

1. 開催日時：2018年3月5日（月）15:00～16:30
2. 場 所：東海大学伊勢原校舎5号館5階会議室
3. 監査委員：委員長：三木 保（東京医科大学医療の質・安全管理学分野 主任教授）  
委 員：大塚 達生（弁護士・神奈川総合法律事務所）  
：小林 幹夫（伊勢原市保健福祉部長）  
：山口 育子（認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長）  
：安田 聖栄（医療法人社団あんしん会四谷メディカキューブ 理事長）  
：千野 修（東海大学医学部附属東京病院副院長）
4. 対 応 者：飯田 政弘（病院長）  
：大上 研二（副院長/医療監査部長）  
：梅澤 博之（事務部長）  
：川又 郁夫（診療技術部長/医療機器安全管理責任者）  
：大澤 資樹（医療監査部次長）  
：矢部 普正（医療監査部次長/医薬品安全管理責任者）  
：東宮 淳子（医療安全対策課長/専任医療安全管理者）  
：上村 浩二（医療安全調査課長）  
：内田 陽子（医療安全対策課/専任医療安全管理者）  
：林 順裕（医薬品安全管理室/医療安全専任薬剤師）  
：小澤 豊一（医薬品安全管理室/医療安全専任薬剤師）  
：西原 英輝（診療技術部臨床工学技術科長補佐）  
：松尾 恵、高木 孝尚、村井 里歌（医療安全対策課/事務局）
5. 監査概要
  - 1) 出席者紹介
  - 2) 監査委員会の成立  
監査委員会規程第5条第3項により、本委員会の成立を宣言。
  - 3) 医療安全に関する教訓的な事象についての具体的な取り組み（2症例）
    - ① 事実関係の確認事項について報告及び質疑応答
    - ② 発生原因の考察について報告及び質疑応答
    - ③ 再発防止策の考察について報告及び質疑応答
  - 4) 施設見学（中央手術室）
6. 監査結果
  - 1) 今回提示された2症例については、どの病院でも起こりうる事例であった。病院としての対応の迅速性に感銘を受けた。手術室については、非常に整備されている印象を受けた。

- 2) 医療監査部は以前から事例を細かく検討し、医療安全情報等を発行している。問題は現場の人が当事者として受け止めていないことであった。土曜日に月2回ラウンドをして医療安全情報等の周知の確認をしていることで、医療監査部から発信した再発防止策が定着するような実効ある対策をこれからも続けていただきたい。
- 3) 事象が起きた際速やかに対応している点では、市民の一人として安心を感じる事ができた。早い段階で周知できているところは良いと思う。
- 4) 動線が良く考えられた素晴らしい手術室である。麻酔科医を増やすことができればさらに充実するのではないかと感じた。  
報告事例の対応はしっかりされていると十分理解できたが、患者・家族への対応の在り方については、もう一度確認をしていただきたい。  
また、医療者からの説明を、患者家族がきちんと理解できるような対応の仕方を更にもう一步踏み込んでいただくことを望む。
- 5) 本日は教訓的な事象についての具体的な取り組みについて報告を受けたが、どれだけ注意しても事象が発生するものかもしれない。それぞれに原因があり、一つひとつその時にきちんと対策を取り、次の教訓として二度と起こさない防止策を立てていくことが大事である。

## 7. 総括

今回報告された事例は、日本医療機能評価機構から注意喚起されており、どの病院でも、どのスタッフでも起こりうる。これを他山の石、対岸の火事と思わず、経時的に注意していく必要がある。医療安全相互ラウンド（ピアレビュー）で訪問した病院において報告された事例等を、自分の痛みとして共有し、改善策を立てていくことが特定機能病院としての役割である。情報共有は院内のみならず、危機感を持って対応いただきたい。常に前向きに様々な事案に対し逃げることなく対応されていることには、敬意を払い、評価をしたい。本監査委員会としては納得のいく結果であった。

## 8. その他：

- 1) 2018年度第1回東海大学医学部附属病院医療安全管理業務監査委員会の監査項目  
・当院の医療安全対策チームの活動及び平成29年度日本私立医科大学協会医療安全ラウンド（東京慈恵会医科大学附属病院と静岡県立静岡がんセンター）指摘事項の対応状況について。
- 2) 2018年第1回の開催時期  
・2018年9月中に開催予定。

以上